

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202387		
法人名	医療法人 愛和会		
事業所名	ハナレイ倶楽部 グループホームB(3階)		
所在地	長崎県佐世保市城山町3-21		
自己評価作成日	平成27年11月15日	評価結果確定日	平成28年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanji=true&jijyosyoCd=4270202387-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成27年12月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業者は病院併設で昼・夜間とも協力を得ており医療面と、施設内でも看護師がいて看取り介護を行い健康面の充実でも入居者・御家族に安心を頂いています。周辺は学校や市役所があり、バス停の近くで交通の便が良く面会も多く来ていただいています。建物は窓が広く朝・夕の散歩、通勤・通学の行き来や、日常生活では買い物や外出、行事などで地域との交流を図っています。毎日を明るく楽しく過ごしていただける様に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が母体である強みを活かして、入居者の看取り体制が整っている。看取りを希望する場合は、担当医師が家族等に説明を交え、総合的に判断する仕組みが確立している。また、医療・介護・生活が連動しており、入居者は安心して生活を営むことができ、その家族は安心してグループホームに任せることができ、職員は安心して入居者の支援にあたることができるように、「安心」というキーワードの環境が整備されている。最後に、職員は入居者から笑顔を引き出すことや、楽しく過ごしてもらうことを目標にして、普段の関わりやさまざまな活動の中に工夫をしている。特に地域性を活かした場所への外出の頻度を多くして、地域との繋がりを意識したサービスを提供している。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り後、職員で読み上げる事で確認し実践につなげる様心がけている	理念の共有については、入居者に楽しく生活してほしいという考えのもと、職員は近隣に市場や商店等があるという立地条件に恵まれた地域において、可能な限り資源を活かして生活をサポートしていた。毎朝理念の共有を図る目的で唱和しているが、理念の浸透を促進させるためにも、もう一歩踏み込んだ取り組みが必要である。	法人の理念をパンフレットやホームページにも明文化して、職員をはじめ家族も含めた外部へも、方針をアピールする企画の検討と、職員向けに事業所の名前の由来や、より一層の理念の共有を目的として、毎朝の唱和だけではなく、定期的に理念について協議する場の創造を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の商店街の利用や、散歩時は挨拶を心掛けている。又月1回の外出でも交流に努めている。災害時は、併設の病院を非難場所として町内に伝えている	自治会関係との関わりとして、公民館祭りに参加してみないか打診があり、今年初めて交流プラザに作品を展示をした。また、近隣の中学生が職場体験の目的で定期的に訪問しており、老若男女問わない関わりを持つことができていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職場体験・高校生のインターシップや専門学校のボランティアの受け入れ等で、事業所や認知症の理解をしてもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では市の標準項目にサービスの状況報告や外部評価の報告を行い、委員の方達の意見を頂いてサービスに活かせる様努めている	特徴として、全く別法人のグループホームの職員が参加して、同業他社という第三者の意見を、聞くことのできる機会を持つことができていた。また会議で意見は活発に出るよう、自治会の担当者は、地域で予定している行事等を詳しく教えてくれる場となっていた。この機会を契機として、公民館まつりに参加することができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での出席時にお尋ねをしたり意見を頂いたりしている。又入居者の認定調査時にも日常の生活状況を伝えている	市からの情報は、主に研修関係の内容が多くなっている。今のところ法人として、特に困難事例等での相談はしたことがないが、基準に適合した運営ができていないか、確認する機会を多く持っていることを確認した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2・3階がグループホームでエレベーターが玄関になって、居室のドアも一日中解放し全職員が共有している。やむを得ない場合は理由・方法・期間を明記し、御家族に説明・同意書の準備をしている	グループホームの玄関の部分がエレベーターとなっているため、日中は人が通ると音が鳴るようになっていて、入居者の所在等を確認できる取り組みを行っていた。また身体拘束や虐待の廃止に関する研修は、入社から3か月以内に新人研修と位置付けて実施するほか、年間研修計画に必ずテーマとして掲げ、夕方から1時間くらいかけて研修を行っていることを資料から確認した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年長者としての尊敬を忘れず、話しかた、触れ方全てに気を配る様心がけている。又内外でも研修会に参加したり、職員全員で取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は活用されている方がいないが、今後いつでも支援できる機会をもちたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より、不安点・疑問点を聞き説明を行い理解を頂き契約し、改正時はその都度説明・同意を得ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。面会時には日常の報告と話しやすい雰囲気を心がけて意見・希望を出してもらっている	意見箱は設置しているものの、うまく反映できていない一面があるため、普段から家族が面会に来られた際等心がけて話をするようにしていることをヒアリングから確認することができた。また、遠方に在住の家族には、FAXや電話を用いて近況を伝えたり、要望がないか確認するようにしていた。但し、クリスマス会など大きな行事の時は、家族が集まるいい機会となっているため、この時にアンケートを実施してみるなど、工夫の余地はまだある様子であった。	職員は普段から家族等の意見を聞きだす取り組みを意識して実施しているが、家族としては言いにくい内容があることも考えられることから、無記名式のアンケートを実施する等して、より一層意見を反映できる仕組み作りを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にカンファレンスを行い意見交換・提案が言える雰囲気業務や運営に反映できる様努めている	月一の定期的に行われている会議では、管理者が一番上位の参加者として位置付けであり、意見の内容は入居者の生活支援や業務に関することを中心に、職員から意見や改善に関する提言が挙がってくる。職員からの意見に対しては、「まずやってみよう」というスタンスで取り組んでおり、意見を前向きに捉える姿勢を確認することができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	レクリエーション(映画・ボーリング)・親睦会の機会もあり、休憩場所もホームとは別の階で男女別になっている。チャレンジシートでの賞与で、各自が向上心を持てるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人には職員が1対1で十分に指導している。2ヶ月に1回のハナレイ全体の勉強会と毎月のカンファレンスにも資料や文献等で研修を行っている。又法人以外の研修は勤務扱いにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や各研修での交流で意見交換をして、サービスの向上に活かせる様努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時や見学、決定時には再度御本人に会い施設内の生活の説明や、御本人の不安・要望を聞き安心に努め入居して頂いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望を丁寧に聞いたり文書での説明を行い話やすいと感じてもらえる様努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に生活歴やいままでのサービス利用を聞き、今の状況の把握に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方ができる事はお手伝いをして頂き、感謝とねぎらいの言葉かけを行っている。又御本人や御家族の立場に関わる様努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は笑顔で迎え、その都度本人の状況を説明して、遠方の御家族には電話で報告している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	仕事仲間や友人の面会、電話での会話等オープンにしている。季節に応じた行事や外出を入居者と話し合いを行って決めている	馴染みの関係を継続している一例として挙げられたのが、家族、同級生、職場の仲間等であった。また、馴染みの場所への関わりについては、身体的に行きつけの美容室に行けなくなった入居者の関係を継続するため、美容師がホームに出向いてくれるように職員が調整した一例を、聞き取りの中から確認した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はほとんどリビングで過ごされる時が多く入居者同士関わりを持ち、体操・レクレーション・会話で楽しんでもらえる様必要に応じ声かけ等をして、孤立しない様支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院時は退去サマリーで情報提供をして、職員はできるだけ面会に行き御家族の希望や本人の状態確認や今後の事の相談にのれる様つとめている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が話やすく働きかけたり、御家族と検討したりして思いや希望に沿える様支援している	入所時に本人や家族の思いや意向を聞き取るが、思いや意向も日々変化するため、日頃の会話や家族の面会時の会話から、常に把握に努めている。聞き取った内容は、朝の申し送りやカンファレンスにおいて、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族や御本人からの会話で入居時のフェイスシートを作成し、入居後も会話や知人等含め把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定・申し送りと声かけを行い、又職員が全体が見える位置で記録も行い、少しの変化も気づくようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや定期的カンファレンスで、課題やケアの気づきについて話しあったり、又御家族にも意見を頂き作成し、説明と同意を得ている	介護計画は、申し送りやカンファレンスで出た職員からの気づきや、本人とその家族の意向を踏まえて各ユニットの介護支援専門員が作成している。3ヶ月に一度の見直しに加え急激な利用者の変化があった場合にはその都度対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活や言葉・身体的状況の記録や受診時のアドバイス等情報を共有し計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々、状況に応じたニーズに対応できる様、御家族・職員・看護師と話し合って支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館祭りに今年初めて入居者が作成した物を出品し、職員とともに出かけた。入居者は色んな作品を見て、会話や笑顔が見られ喜ばれていた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を、御家族・御本人の意志を確認している。施設内に看護師がいて、併設の病院では24時間対応可能で急な受診にも対応できる体制になっている	法人の病院が併設しており、本人と家族に説明したうえでかかりつけ医の選択を確認している。24時間対応や往診もできることで家族も安心できている。それまでのかかりつけ医への通院は家族が行っている。認知症の専門医への通院には施設の看護師が同行し、日頃の本人の様子を医師に伝えている。通院後は変化があった場合に家族へ連絡し面会時にも報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診は看護師と介護職員は協働し、変化や結果を他の職員全員に申し送り時に伝えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者に関する情報提供を御家族と相談しながら医療機関に提供したり、又退院に向けては、御家族・御本人が安心できる様居室をそのままにして待っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護を行っているが、入居時に重度化の場合を確認し、終末期には再度話し合っている。重度化の対応と終末期の処置の手順をステーションに掲げて支援出来る様努めている	看取りの取り組みは病院との連携が密にあり、体制が整っている。入所時や見学時に看取りについての説明を行い、契約時に希望を確認し同意を得ている。終末期には再度説明と確認を取り、医師から家族に説明をしてもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故報告書を作成して、申し送りやカンファレンスで全員で原因や改善策を話し合っている。又手当等の対応も看護師に指導してもらっている。法人全体の委員会でも報告している。マニュアルを作成し、御家族の連絡内容をカルテに必ず記録している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練や消火訓練を含めた火災訓練を年2回実地して、新人職員にも身に付けてもらっている。運営推進会議では町内の方に協力を依頼している。台所はIH調理器を使用している	年に2回、火災の避難訓練、消火訓練を行っている。施設内は災害時の地域の避難所として開放している。法人の病院に自家発電の設備や備蓄品の毛布やポータブルトイレなどの備えもある。	火災の避難訓練の計画と実施は行われているが、火災以外の災害を想定した訓練や研修などは行われていない。火災以外の災害に対する訓練の計画や、現在備えている備蓄品に加え、非常食と飲料水等の確保が必要と思われる。今後検討を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	難聴の方が多く、側で声を掛けたりその方に合った言葉掛けを心掛けている。訪室時は、ノックや声掛けをしている	利用者には名前呼び、敬意を払い接するよう心がけている。難聴の人にはゼスチャーやボードを使って意思の疎通を図っている。職員は入職時に法令順守と個人情報の保護についての誓約書を交わしている。利用者とその家族には個人情報の利用目的を説明し同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけやスキンシップ・表情等、入居者に合わせた働きかけをしている。選択できる事については意思を尊重するように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物の外出時は入居者の好きな物を選んでもらい、又外出先の希望やそこで何をしたいかも聞いている。日常でも無理強いしない様状況を見て支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝お化粧をされる方がいて、外出時や同じ物を着られる方は職員と一緒に選んでいる。毎月ビューティヘルパーが来られ希望でパーマ・カット・髪染めをされる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前から献立の話や包丁の音や臭い等感じてもらったり、季節や行事に応じた話をして楽しみにしてもらっている。又食前には嚥下体操をし職員も一緒に食事を囲んでいる。前後は出来る方はお手伝いをして頂いている	食事の献立と調理は、朝・夕はその日の勤務担当の職員が行い、昼食は料理担当の職員が行っている。1ヶ月分の献立表は法人の栄養士に栄養やカロリー等のチェックをもらっている。職員も一緒に食卓を囲み、花を飾り、音楽を流すなど、食事を楽しむ工夫をしている。利用者はランチョンマットや箸なれば、台拭きや茶わん拭きなどの手伝いも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は10時・15時・入浴後・夜間とその方に合った物を準備し、食事摂取量も職員が同席して摂取状況や量の確認をしている。メニューも重ならない様注意している。お茶はいつでも飲める様カウンターに準備している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員フロアーの洗面台で行いその方に応じて介助・仕上げ・義歯の洗浄等行っている。又、歯科の口腔ケアも定期的に往診に来られ、指示を頂いている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックリストでパターンを把握したり、日中は殆どトイレを使用している。夜間・行事等に応じて使い分けている	排泄チェックシートを作成し、利用者の排泄リズムを把握している。声かけが必要な場合には、トイレ誘導を行っている。自室でのトイレ誘導であるため、プライバシーにも配慮出来ている。利用者のほとんどは自立できており、夜はポータブルや夜のみのパット使用など、日中は出来るだけトイレで行えるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲まれ食事野菜を多くし、午前・午後の運動を行い予防をしている。便秘時はその方に合った対応をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1対1で対応しその方に合った湯の温度や声掛け・介助を行っている。入浴嫌いな方には散歩をしたり「着替えましょう」等タイミングをずらしたりして無理強いしない様にしている	入浴は週2回一対一の個別対応をしている。利用者の希望で同性介助を行うため入浴日の変更も行っている。入浴を嫌がる利用者にはタイミングを見て声をかけたり、他の利用者からの声かけで気分を変えたりと工夫している。お湯加減や入浴にかかる時間は、ひとりひとりの好みに合わせている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後は昼寝の時間を取り、入浴後は自室で休んでもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋綴りで、1人1人の薬の目的・量・副作用が解かり、入居時からの通院記録で薬の変化も把握できる様にしている。申し送りの時にも変化や内容を確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫や生け花・お手伝い等をして頂いたり、新聞や週刊誌を楽しみにされている方がいる。誕生会や外出・行事等で気分転換の機会にしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の外出には希望を聞き、買い物・外食・花見等楽しみにされ周辺の散歩も楽しまれている。又、定期的に御家族の協力で美容室の利用や外出・外泊に出掛けられる方もいる	月に一度はユニットごとにドライブや外食へ出かけている。家族の希望でお墓参りや美容院などに出かけたり外泊したりしている。職員と買い物へ一緒に出掛けたり、近所へ散歩に出かける支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の外出時は御家族から全員おこずかいを準備して頂き、好きな物を選び買ってもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵便物、知人や遠い親戚の方からの電話の取次ぎの支援や、携帯電話を持たれている方は自由に使える様にしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	国道に面しているが窓を閉めると車の音は殆どなく、職員も声の高さや走ったりしない様配慮している。又、季節を感じられる飾りつけも毎月工夫している	窓が大きく光が入り、開放感があるリビングにベランダもあり、くつろげるスペースになっている。観葉植物や切り花が飾っており、季節にあった飾りつけを行うなど明るく居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者はリビングで過ごされる時が多いが、廊下の隅にソファを置いたり、ダイニングの椅子に座って外を眺めたりされる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具以外は自宅から使い慣れた物や馴染みの物・ポスターや写真・縫いぐるみ等持参され、自室でその人らしく過ごして頂いている	備え付けの収納家具以外にも利用者の好みの家具やテレビの持ち込みに対応している。位牌や家族の写真などを置いて落ち着いて過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごしてもらえる様、トイレ・廊下には手摺りが配置しており、杖歩行される方は職員が側で見守りを行っている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202387		
法人名	医療法人 愛和会		
事業所名	ハナレイ倶楽部 グループホームA(2階)		
所在地	長崎県佐世保市城山町3-21		
自己評価作成日	平成27年11月15日	評価結果確定日	平成28年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&jigyosyoCd=4270202387-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成27年12月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ハナレイ倶楽部の理念を、毎朝声に出して確認合っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけた際、地域の方に挨拶したり話をしたり、又近くの中学生がボランティア活動で来られ交流を図っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望の方等気軽にいつでも見学に来られる様玄関に表示している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議後、話し合いの内容を報告し、参考にしよりよいサービスに努めている。会議の資料はエレベーター前に御家族がいつでも見れる様に置いている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所に相談したり認定調査等で接する機会があり連携をとっている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居時に夜間のエレベーターの施錠の説明と、センサーマット等必要な時はその都度御家族と話し合い同意を得ている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待等の事例を勉強会で話し合い、虐待を起さぬよう心にゆとりを持ち介護に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について勉強し理解し、介護の現場で活用できる様にしたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、御家族・御本人が納得して頂ける様、できるだけ詳しく説明し理解して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、苦情・意見・要望があった時はその都度話し合い対応している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は現場にいて、いつでも職員の意見を聞く事ができ、月1回のカンファレンスでも意見を述べている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシートの活用での賞与や資格取得手当があり、又親睦会やレクリエーションで気分転換を図っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修は勤務扱いで、勤務年数に応じた研修にも参加している。法人内では教育委員が、2ヶ月に一回のハナレイ全体の勉強会も行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や研修時に意見交換等、同業者との交流を図っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の申し込み時より御本人を交えて話し合いをして、安心して楽しく生活が出来る様コミュニケーションを図っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	大切な入居者様を預けられる御家族の目線になり、要望や不安等親身になって答える様心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要とされている支援を聞き、出来るだけそれに沿った介護で楽しく過ごしてもらえる様努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方が出来る事をして頂き、達成された際には共に喜びあっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の暮らしぶりや変化等を詳細に伝え、又御家族からの要望があれば職員間で話し合い、より良い関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等面会に来られたら、明るく笑顔で挨拶をし、本人と楽しいひと時が過ごせる様支援に努める		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士仲良く出来る様配慮し、それぞれの性格を把握し、和を保てる様支援に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院となっても面会に行き、本人とコミュニケーションを図りながら、御家族との関係も変わらず相談に応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者に合った生活が送れる様、御本人・御家族の意見を聞き、出来る限り要望に沿える様心がけている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	レクリエーション等でどのような暮らしをされてきたかを聞き出したり、その方に合ったコミュニケーションで把握する努力をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、その日の顔色や食欲・排泄・会話で状態を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りやカンファレンスで職員が話し合い、その方に合った介護計画を立てている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日サービス計画のチェックと気づきを記録して、職員間で情報交換をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や御家族の状況に応じ、通院は隣接する病院で対応し、個人に合った支援が出来る様努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭に出品する作品を作って参加をしたり、迎いの中学校の入学・卒業式には、お祝いのメッセージのボードを作り共に祝う事ができている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院と隣接しているので急な対応もでき入居者・御家族共安心して過ごされている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常駐しているので、入居者の体調の変化等は共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院看護師からの情報を得て、治療に安心して専念できる様、出来るだけ面会し優しい声掛けをしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に御家族や御本人との話し合いを行い、今後の方向性について希望を重視し、対応できている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	目につく所に急変時のマニュアルと対応を置きいつでも見れるようにしている。又事故報告書やカンファレンス等で全員が共有し対応できる様話しあっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	訓練は年2回実地、真剣に取り組んでいる。又全体の勉強会でも避難・誘導の仕方も取り入れ、実践できる様取り組んでいる		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを傷つけない様言葉かけには充分注意をしているが、時には難聴者と意思疎通がとれず、筆談で応じる場面もある		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現・主張される方は話を聞き、アドバイスする時もある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調に合わせ、飽きさせない様、無理させない様に話を聴くようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれに好みの洋服を着られお化粧もされている。その変化に気づき「きれいですね」等の声かけも忘れない		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時、食べたい物があるか等希望の物を取り入れたり、もやしの根切り等簡単な作業を手伝ってもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューの偏りが無い様工夫し、個々に応じて形態を変えている。水分も充分とれる様声かけし支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、磨き残しの無い様見守り、義歯の手入れ、消毒を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、オムツへの失禁をなくす為、時間毎の声かけ・誘導をしてトイレでの排泄を支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く摂る献立を考えたり、下剤・水分・運動等で便秘の予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、入浴する時間は余裕をもって知らせておき、あわてる事なく入浴を楽しんでもらう努力をしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調を観察し、それぞれの意思で自室で休息されたり、職員が声かけし入床を促す時もある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し、用量・用法確認しています。誤薬を起こさぬ様子声に出して名前の顔・薬を確認して渡し、飲み忘れがないかチェックしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の性格を把握し、その人に合った声かけをし、天気が良い日は、気分転換として外へ散歩に行き、コミュニケーションをとっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族の協力を得て外出される入居者がいたり、月に一度レクリエーションでドライブする事で季節を感じて頂き、日頃からストレスを溜めない様工夫している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方は本人自身が管理されていて、支払い時等で間違いがないか、職員は側で見守りをしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を使用する方もおられ、御家族への電話依頼の場合は必要であれば職員が電話の取次ぎをして御家族とのコミュニケーションを支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大窓で見晴らしが良く、季節の移り変わりをを感じる事ができ、光や温度はその都度調整している。テーブルには季節の花を生け、ベランダにも植木を置いて落ち着いた空間を出している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で外を眺められている方がいたら、コーヒーを勧めたり、リビングではソファーに座りテレビを見たり、話たり、広い空間の中で過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では御家族の写真を飾ったり、テーブルには花や本を置き、使い親しんだ物を置かれている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアーには段差がなく広い空間の為、個々の行動が見渡せ、手摺りを使用して歩行されている時は見守りして安全に注意を払っている		